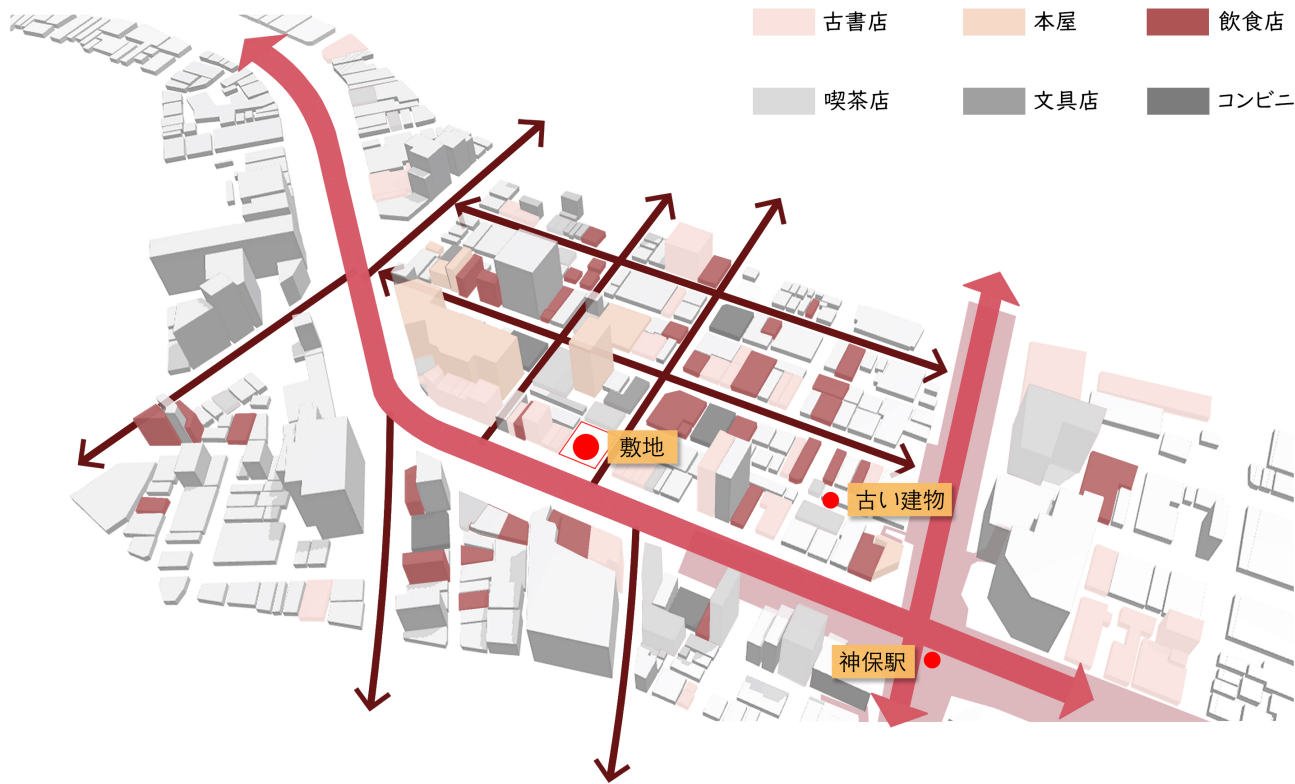


成長のルービックキューブ

一時的に移動できる多機能休憩スペース設計

敷地は神保町の古書店街内にあり、古書店街は神保町地域独特の文化街として栄えている。時代の流れとともに、人々は実物の本に対する需要はますます低下して、古書店街の書店はどんどん減っていく。このユニークな文化の街がこれからの歴史の中に消えないように、このプログラムは、移動できるモジュラー設計によって多機能の休憩スペースを作り出し、周辺の書店とインタラクティブを形成すると同時に、モジュラーによって異なる空間ニーズを満たし、空間に楽しさを加えて、より多くの観光客を引き付けて、書店街を活性化する。

1 敷地の調査



敷地



世界最大の古書店街と呼ばれる。周辺に学校が多いことから、学生街とも呼ばれている。

古い建物



神保町の古書街には古本だけではなく、その奥には古い喫茶店がぎっしりと隠れている。

神保駅



敷地の近くには半蔵門線神保町駅と三田線神保町駅と都営新宿線神保町駅がある。

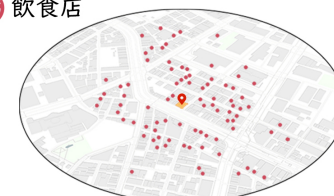
2 周辺業態の分布

本屋



書店は敷地周辺に集中しており、放課後など特定の時間帯に人の流れが多い。

飲食店



基地周辺の飲食店は非常に多く、近くで食事をするのが便利だ。

喫茶店



基地周辺にはカフェが多いが、学生たちが自由に休みながら本を読める場所はない。

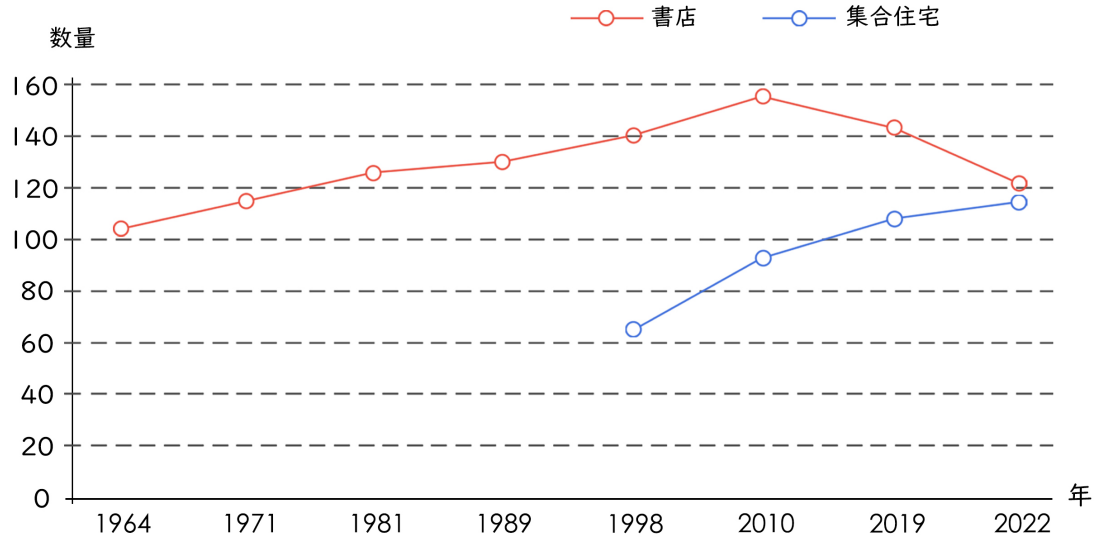
学校



基地周辺には教育機関が多く、人口密度が高く、学生の割合が高い。

3 神保町調査レポート

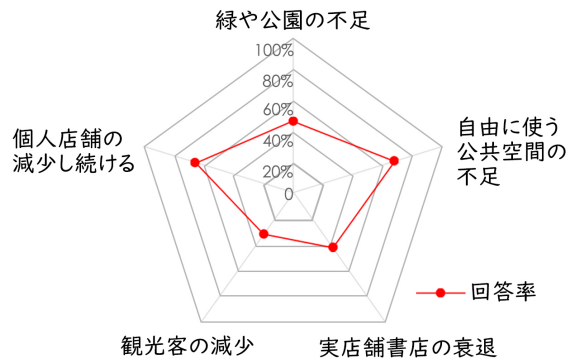
書店と集合住宅の推移



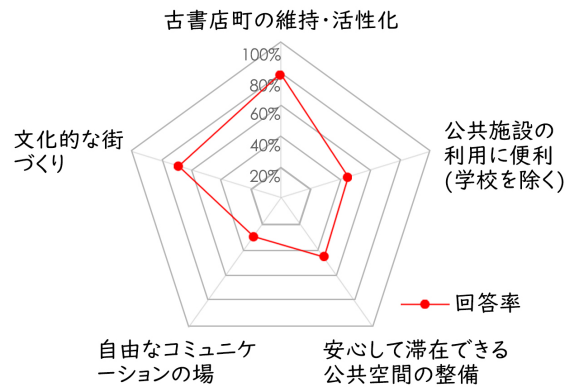
神保町は2010年頃から本屋が減り、2000年頃からマンションが増えてきました。マンションの増加により、街路の機能的な建築も変化しつつあります。

地元住民の声

神保町の問題



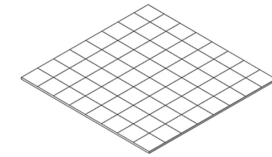
神保町への期待



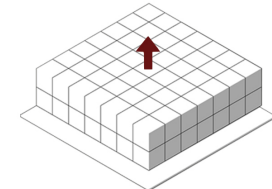
神保町的主要な問題点からみると、既存のスペースを活用して周辺の店舗との交流を図り、書店街を存続させていく必要があります。

神保町に対する住民の期待を考えると、古書店街の再生と安心して自由な憩いの場の創出が重要だ。

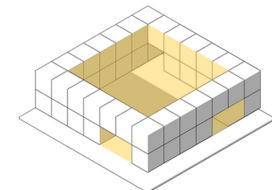
4 建築ブロック推定過程



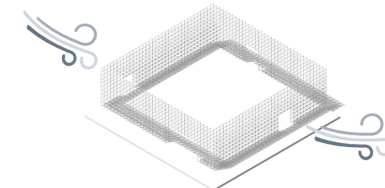
正方形を使って敷地を分割する



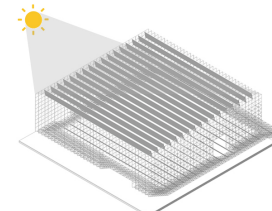
立体的な正方形を使用して建物の大きさを制限する



スペースの引き算を行い、内部空間の重厚感を減らし、出入り口を決定する

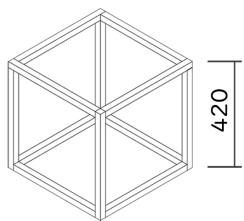


立体的な正方形を分割し、モジュールを簡素化し、空間の重量感をさらに低減して公共スペースの日常的な換気ニーズを満たす

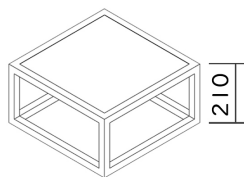


天井には可動板を設置し、室内空間の日常的な採光ニーズを調整する

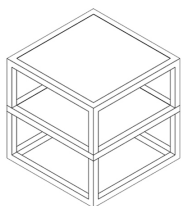
5 コンセプト



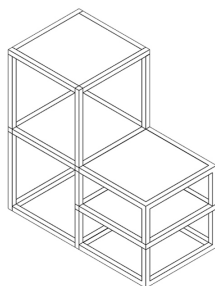
単一のモジュール 1



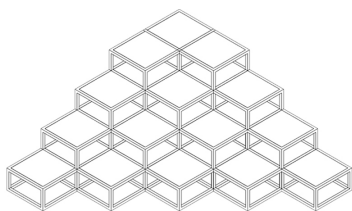
単一のモジュール 2



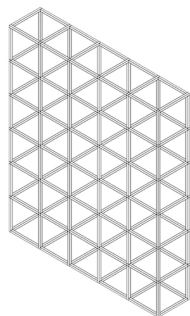
モジュールの組み合わせ 1
(シングル椅子)



モジュールの組み合わせ 2
(テーブルと椅子の組み合わせ)

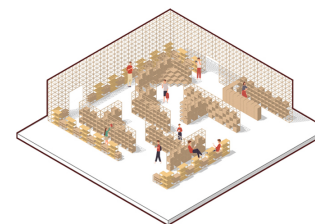


モジュールの組み合わせ 3
(複数人用の座席)



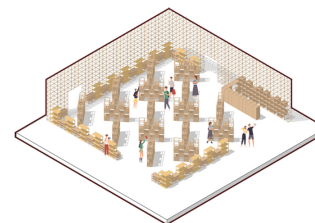
モジュールの組み合わせ 4
(ディスプレイラックまたは本棚)

6 スペース機能の変換



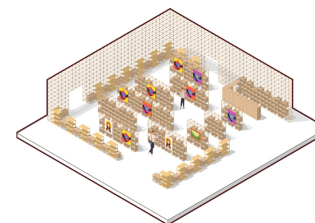
休憩 + 書店

日常の休息に必要な空間を提供する。



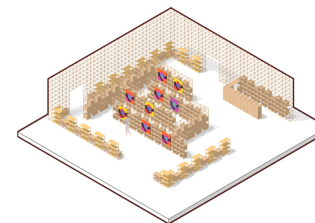
休憩 + インタラクティブな書店

それぞれのモジュールを周囲の書店に貸し出して宣伝や販売に使う。スペースと周囲の書店との交流を強化し、周囲の書店の発展を促進する。



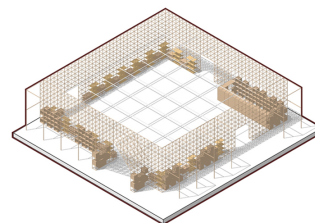
休憩 + 展覧

展示スペースとして使用するために、スペースに分散展示壁にモジュールを組み合わせる。



休憩 + ガイド付き展覧

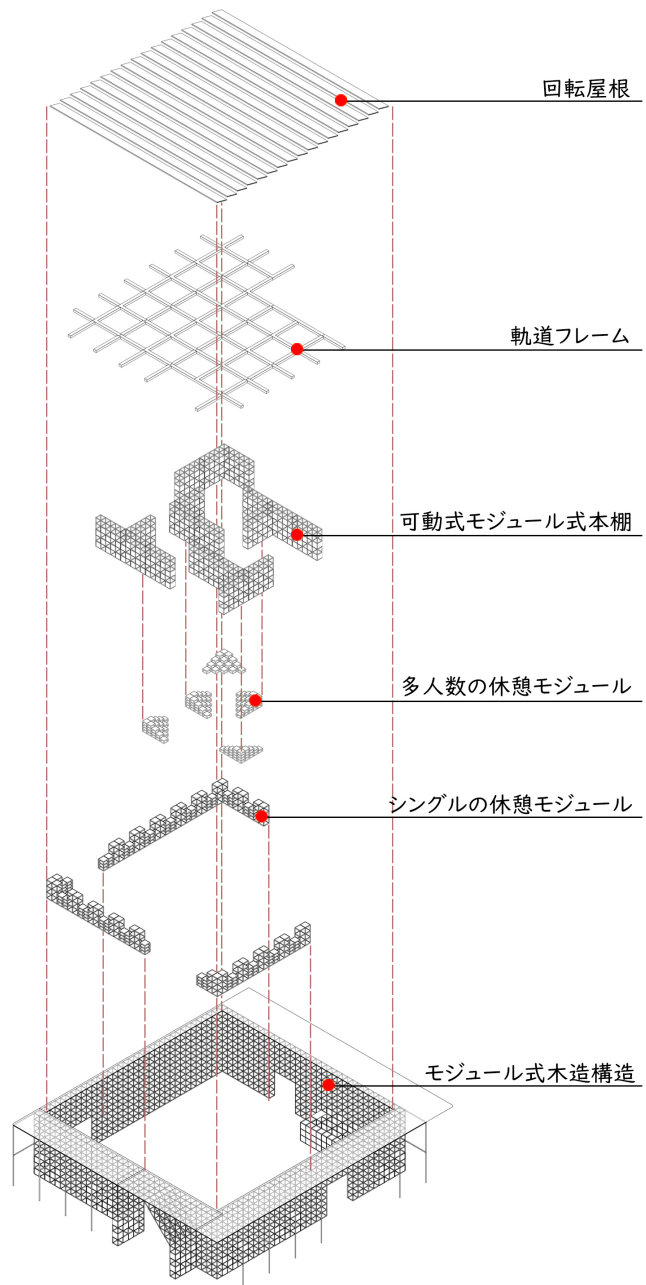
モジュールを誘導機能を持つ展示スペースに合成し、書店街でイベントを開催し、展示スペースで書店街の歴史を展示し、より多くの観光客を引き付けることができる。



スペース機能トラックをスライドさせてモジュールを動かすことで、さまざまな機能シナリオを実現する。



7 爆発の分析図



8 模型写真

